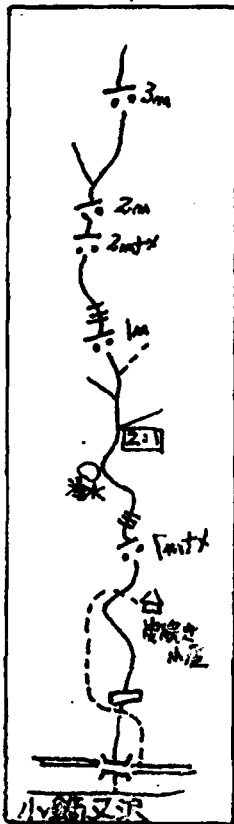


まったのである(進行図の×地点)。13:00まで停滞し、何とか歩けそうだというので、下降を再開したが、今までの半分以下のペースである。

二度の懸垂下降を強いられたが、どうにか14:45二俣着。車デポ地に着いたのは、16:20だった。

骨折したのが手首だったので、何とか自力下山できたが、これが足だったらと思うと、改めて沢登りにひそむ危険性について考えさせられる山行でした。 (記・

[タイム] 出合(7:10)→二俣(9:05)→稜線(11:35)→下降開始(11:40)→二俣(14:45)→下降終了(16:20)



小鍋又沢

1984年8月26日

L

小鍋又沢は、只見の沢の中で、何も無いという点ではトップクラスである。滝らしい滝もなく、堰堤と炭焼き小屋が出てきただけで、あとは行けども行けどもヤブこぎ山行となる。あまりに早く下ってしまったので、二俣から右俣に入ってみるが、同様の沢なので、すぐにやめて引き返した。

(記・

[タイム] 進行開始(6:35)→終了(7:55)

かあらいど沢右支流

1984年8月25日

L

風来沢橋のもとに車を置いて出発。今日の目標である右支流の出合までは、地図上の等高線の間隔からいって平凡な河原歩きが続くだろうと考えていたのだが、あにはからんやゴルジュを含んだなかなか変化のある沢登りとなった。

出発して10分と歩かないうちにまず第1のゴルジュ。規模は決して大きいとはいえないのだが、青白い岩肌に囲まれた深い溜には一種独特のすごみを感じられる。このゴルジュには2つのトロがあって、奥のものは最初は左岸、途中からは右岸に移っての水中へつりとなり、胸まで水につかる破目となった。今年は日照りが続いて、水量が例年の半分以下になっていてこの状態だから、水量が多い時などは泳ぐほがあるまい。

